

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0827
施設名	松江おひさま保育園
施設所在地	江戸川区松江1-10-5
法人名	社会福祉法人えどがわ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

感触遊び

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

普段から行っていることも多い感触遊びの中で、触れたことや見た事の無いもの、触れてみたいものに触れる事で子どもたちがどのように感じ言葉で思いを伝えようとするのか、どのような表情を見せてくれるのかを知る為。また、更に感触遊びに興味を持つことが出来るようにこのようなテーマにした。

2. 活動スケジュール

8月：小麦粉粘土 9月：吸水ポリマー、小麦粉粘土、指絵の具 10月：小麦粉粘土
3月：エンゼルクレイ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

吸水ポリマー遊びと色水遊びを一緒に行う為、事前にクレープ紙で

色水遊びを行いスムーズに行うことが出来るように準備をした。

また、約束事として吸水ポリマーを口に入れたり、触った手で顔を触らない事をわかりやすく、しっかりと見守りつつ危険な行動が無いように配慮をしていった。

自分のマークシールが貼ってあるプラスチックカップとレンゲを渡した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

プラスチックカップの中に「かき氷」に見立てた吸水ポリマーをレンゲでよそっていく。初めて触れる感触に驚きつつも嫌がる事はなく積極的に触れていた。プラスチックカップいっぱいに入れる児、控えめに入れる児、個性が見られた。子どもたちのリクエストに基づいて、保育士がプラスチックカップにクレープ紙と水を入れ色水を作った。子どもたちにも協力をしてもらい素敵な色水が沢山完成した。色水は全員分ないが、プラスチックカップの中の色水をレンゲで入れたりコップから直接入れたり、また量も子ども達がそれぞれで考えて入れていた。吸水ポリマーの詰め方によって層が出来て、色合いが様々であった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

初めは一人一人黙々と行っていたが、慣れてくると友達の様子を見て色が違う事や吸水ポリマーの量が違うことに気付いて来た。初めは自分の物と見比べていた。保育士が話しかけ、きっかけを作りそこから友達とのやりとりが見られるようになった。少ない色で行ったが組み合わせによって違う色になり、友達との違いに気づき友達との話を楽しむ姿が見られた。30分ほど活動を行う中で、好きなだけ吸水ポリマーを入れ、色水を入れ個性あふれるかき氷が完成した。吸水ポリマーと色水遊びを掛け合わせた活動であったこともあり、飽きることなく30分間楽しむ様子が見られていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

1歳児の頃から行ってきたことがある感触遊びの中で、更に触れる事や見ることを楽しむことが出来るようエンゼルクレイや吸水ポリマーを取り入れて行った。家庭でも見たり触れることが出来ない物があると、子どもたちは興味を示し友達や保育士の反応を見て楽しむことが出来た。また、思いを自分なりの言葉で伝えようとしたり様々な表情を見せてくれるようになった。苦手な児も、友達が触れている姿を見る事で回数を重ねる毎に触れることが出来るようになって来た。継続することの大切さを感じた。